

## 芸術表現体験



### 計画案の趣旨、目標、ねらい等

〔趣旨〕 演劇的手法を用いた体験型活動において他者と関わることで、日頃の学校生活での同質で限られた集団の人間関係を見直し、対話や創作活動を通し自分と異なる価値観を持った人々との関係作りを体験する中で、自己肯定感や社会性をはぐくみ、より広範で多様な社会グループにおける人間関係形成能力の育成をはかる。

〔目標〕 演劇的手法での身体活動や言語活動・表現活動を通じ、体感的に他者認識・他者受容・他者理解を学ぶ。自分とは異なる価値観の人々と協力・協働し、課題解決する事で得られる愉しさや喜びを体験し実生活においてこの体験を活かし主体的かつ創造的に人間関係を形成する力を育む

〔ねらい〕 自己と他者との「ちがいを知る、ちがいを受け入れる、ちがいを認める」事。他者と共に、主体的かつ創造的に課題解決に取り組み、その愉しさや喜びを味わう事。活動を通して体感・体験したことをふりかえる中で、自身の言葉で言語化し、相互に共有し考えを深め合い、日頃の生活の中での人間関係を見直す機会をつくりだす事。

# 事例紹介

(実施回数全3回の内容)

※プログラムは各学校のねらいや目的ごとに変更します。

## ■第1回【導入】

【ねらい】 身体や感覚力を用いる活動を通し、自身の身体性や感覚力への気づきを促し、自己肯定感を育てる。他者と自己との違いを知り、その違いを肯定的に受容し、他者と共に活動する事を楽しむ姿勢を育てる。

【内容】 ①ガイダンス ②ウォーミングアップ ③受信と発信を体感する活動 ④非言語コミュニケーションを使った活動 ⑤振り返り ⑥クーリングダウン

## 目かくし電車

(受信と発信の体感)

- ・生活班で一台の電車になる
- ・目かくしした先頭を最後尾が誘導する
- ・簡単な合図を伝える

「見えない〜こわい〜」  
「あー!!そっちじゃないよー!」



## スティック・ウォーク

(非言語コミュニケーションを使った活動)

「次どっち行く?」  
「あっち」  
「こっち」  
「すごい…言葉がなくても私たち部屋中動ける!」



## 感想

### 【担任の先生】

- 声を掛け合う関係が「対等」な感じがした。  
学校生活では、孤立しがちな児童に対しても、嫌がる様子もなく、話し掛けることができていた。  
子どもたちがとても伸び伸びとしていたし、活動後は逆に普段より落ち着いていたように思いました。
- 言語活動を苦手とする子どもにとって、言語を使わずにコミュニケーションを図る方法を理解できたことで、安心して他者とかかわることができる。

### 【子どもたち】

- あんまりあそんでない人とも気が合うんだと思った。(4年生)
- 自分でも、考えればこんなにできるんだな、と思いました。(5年生)
- どうしたら伝わるかとかを考えるのが楽しかった。(6年生)
- 友だちとの協力でいろんなアイデアが生まれることが分かった。(6年生)

## ■第3回【展開及び振り返り】

【ねらい】小集団での活動を通じ、対話による情報の共有と小集団での合意形成を体験する。発信と受信の体験や、小集団で創意工夫し、調整し、共に課題を解決することの喜びや楽しさを体験する。

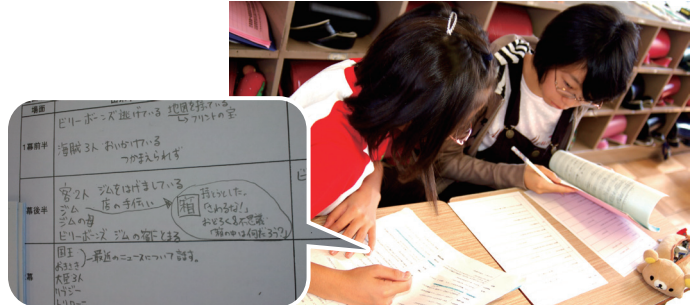
【内容】①ガイダンス ②ウォーミングアップ ③小集団での創作（身体表現）活動 ④小集団での創作（言語および身体での表現）活動 ⑤ミニシアター ⑥振り返り ⑦クーリングダウン

### 小集団での創作活動

#### ストーリー探偵（身体表現）

登場人物の行動や感情の変化を小集団で考えながらイメージの共有をはかる。

「どうしてもどるの!？」  
「ほんとだ! どうしてかなあ?」



#### 写真探偵（言語および身体での表現）

一枚の写真から登場人物や背景からその人間関係や状況を読み解く

「えー、ここどこー!？」  
「何でみんな手を合わせているんだ？」  
「本当だあ。」  
「いったいなにしているのー?」



#### ミニシアター

それぞれキャストイングして場面を立体的に立ち上げます。

みんなで話し合いながらそれぞれの場面立体的に立ち上げてみます。小集団から大集団でもチャレンジします。



「運動会の場面を作ってみよう」  
「大玉ころがし」「じゃあ玉になるね」  
「わかった。じゃ、いちについてよーいドン」



「今までの場面をつなげてみよう！」  
「どこからやる?」

## 感想

### 【担任の先生】

- WS を体験以後、教室でも子どもたちが楽しそうにしている。プログラムは「みんなで」「二人で」「グループで話し合い」と段階を設けることで、子ども達の不安を取り除けることができ、積極的な活動につながった。

### 【子どもたち】

- 意見が合わないときけんかが起こるから、話し合わないといけなと思いました。(4年生)
- 私は人と接するのが苦手だったので、みんなと仲良く協力することがとても楽しかった。(5年生)
- みんないつのまにか笑ってて、自分の考えを出したりで楽しかったです。(6年生)

## ■第2回【展開】

【ねらい】 ペアでの活動を通じ、他者認識・他者理解を深める。ペアでの活動を通じ、自分とは異なる価値観や感性を受容し、他者との信頼を構築する。

【内容】 ①ガイダンス ②ウォーミングアップ ③相手との信頼を高めるための活動 ④二人で創意工夫し創作する活動 ⑤小集団での創作活動 ⑥振り返り ⑦クーリングダウン

### 二人でかたち

(二人で創意工夫し創作する活動)



グループによって様々なカタツムリができあがる。



「雑巾とバケツ!?!」「僕、バケツやるね!!」  
「じゃあ、雑巾やるねー」

### 黒い点、これ何に見える？

(想像力を使って)

模造紙に一つの点。

人によって見え方が違うことを楽しむ。

「まめ」

「こげたコロッケ」

「んー、黒いうめぼし!」



## 感想

### 【担任の先生】

- 考えたり想像したりすることが苦手な子どもを重ねることで慣れてきて自由に発想して楽しむことができた。
- ゲームを通して子どもたちが苦手としていたペアづくりや感情を素直に表現する力が伸びていく様子が見られました。

### 【子どもたち】

- 自分一人の意見よりもいろんな意見をたすと、もっと面白いことが分かった。(4年生)
- それぞれの考えがちがうから、見るのも楽しいしやるのも楽しい。(5年生)
- みんないつもより積極的に手をあげたりしていた。(6年生)
- 体全身使って表現とかがむずかしかったけど、面白くて楽しかったです。(6年生)

## 感想

### 【担任の先生】

- 段階を踏んだ活動で子どもたちも毎回楽しみにしていた。活動を通して、コミュニケーションの良さを感じているようだった。
- ワークショップは、キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力と深く関わり、充実した内容だった。
- 近年、コミュニケーションが苦手な児童が多いことから、教科学習とともに重要な取り組みである。ワークショップを通じて、自分の考えが相手に伝わらない経験をし、どのように表現すれば伝わるのかを真剣に考える姿が見られた。
- 個々が考え行動する事はもちろんだが、他者と関わらなければ進められない活動が中心となっていた。
- 子どもたちが生き生きとした表情で活動に取り組む姿が印象的だった。

### 【子どもたち】

- あまり話してない人と話せた。(小学3年生)
- 人のやりたいことと自分がやりたいことは違うと分かった。(小学4年生)
- 1つの言葉からいろんなものを思い浮かべた。(小学4年生)
- 普段は身体全身で表情を表現しないから、またやってみたい。(小学6年生)
- 友達が自分のアイデアを褒めてくれたり、精一杯協力してくれた。(小学6年生)
- みんなでひとつになって何かをやりやり遂げることは楽しい！(小学6年生)
- 自分と似た意見の人もいたけど違う意見の人もいて面白かった。(小学6年生)
- 人はコミュニケーションなしでは生きていけないと思った。(小学6年生)

- 普段人と関わるのが苦手な児童が、少しずつ関わりの輪を広げていく姿が見られ、嬉しく思った。
- 生徒は「関わるのが楽しい」「考えるのが楽しい」と感じている様子だった。また「伝えること」を喜ぶ姿も見られ、コミュニケーションをポジティブに受け入れられるきっかけになったと思う。
- 身体を動かしながら取り組める活動が多くあり、生徒が意欲的に取り組むことができていた。また与えられた課題を生徒自身が考えて行動する活動が思考面や表現力の向上につながっていた。
- 全体を通して、児童が主体的に考えながら活動し、今後の生活にも活かせる内容だった。生き生きと楽しみながら取り組む様子が印象的だった。

- 人によって全然感じ方や考え方が違うと思った。(中学1年生)
- 感情が分かりやすい人もいれば、分かりにくく人もいることに気がついた。友達のアイデアが面白かった。(中学1年生)
- 言葉を使わずにじゃんけんや一緒に縄跳びをしたり、アイコンタクトで意思疎通をするなど、とても楽しかった。普段はあまり一緒にいない人ともこれから関わっていこうと思う。(中学2年生)
- 普段やらない人と協力してすごく楽しかった。友達関係が深まった気がした。(中学2年生)
- 「言葉を交わすことだけがコミュニケーションではない」ということを改めて知ることができた。(中学2年生)
- 最初は無理だと思っていた、実際にやってみても苦戦する事が何度もあったが、言葉以外でコミュニケーションがとれた時は嬉しかった。(中学2年生)